愛島通信

91

981-1239 宮城県名取市愛島塩手字野田山48
tel 022-384-2171【学校代表】
fax 022-381-0255【庶務課直通】
E-mail webmaster@miyagi-ct.ac.jp
URL http://www.miyagi-ct.ac.jp/

目　次

◆メッセージ……2
巻頭言－ロボコン全国大会優勝に寄せて　校長　斉藤正三郎

◆特集　優勝おめでとう '99ロボットコンテスト……4
Aチーム Quarter
Bチーム AIRIEL

◆卒業おめでとう……16
機械工学科　電気工学科　建築学科　材料工学科
情報デザイン学科　専攻科
進路を考える　教務主事　丹野　浩一

◆お世話になりました　よろしくお願いします……30
岡田　勝彦先生
堀田　雪一先生

◆卒業生からのメッセージ……34
アメリカ教育制度と留学　カリフォルニア大学　福永　亮

◆学内の話題……35
水泳部インターハイ出場1他
6度目の全国優勝！ ラグビー部　総合科学系文科　柴田　尚郎
産学官共同研究フォーラム '99　教務主事　丹野　浩一
「親子でサイエンス」セミナー　総合科学系理数科　鈴木　勝彦
公開講座　教員講座
新校舎探検隊が行く

◆書簡……46
卒業（二十歳）を迎える娘へ　後援会会長　庄司　栄勝

◆海外だより……47
アラビア紀行　電気工学科　国澤　信司

◆連載……48
アメリカ合衆国大学音楽を訪ねて　総合科学系文科　飯田　清志

◆お知らせ……49
表紙に寄せて　主な学校行事　編集後記

◆卒業生からのメッセージ

アメリカ教育制度と留学

福来　寛

卒業年：金属工学科1975年卒業(第三期生)
所　属：カリフォルニア大学サンタクルーズ校
社会学部教授

金属工学科卒業の福来　寛です。渡米してから24年が過ぎました。現在，アメリカの大学で法社会学を教えています。アメリカから観た日本の受験教育そしてアメリカ教育制度と留学について考えてみたいと思います。

日本の教育・アメリカの教育

日本の学生は中学・高校時代までに完全燃焼し進学，大学時代は燃えかすとして過ごします（失礼)。それでも卒業できるし，その点も問題ですが，米国の学生の場合は高校までは比較的ラクをして，大学進学の前にSATを受け，その成績で進学します。成績が悪かったら短大に進み，そこで猛勉強をして四年制大学に編入します。大学での勉強が足りない場合は修士，博士へと進んでいきます。つまり大学で完全燃焼するわけです。そしてアメリカのシステムはいわゆる敗者復活戦が可能な懐の深い教育制度でもあります。

私を含め，受験一辺倒の教育に合わない学生が日本には大勢います。受験勉強は社会に出てからあまり役にたたないし，例外もいますが，受験秀才はアメリカでは通用しません。受験問題には必ず答えが存在しますが，大学の研究課題・問題には答えはありません。自分自身で考え苦しみ答えを創ります。考え方・思考方法も自分で考えなくてはなりません。受験のクイズ思考で答えを探そうとしても解答が無いのですから不可能です。ですから，クイズ思考で受験教育をサバイバルした日本のいわゆるエリートと呼ばれている人たちは自分で考える能力が乏しいようです。一例を挙げましょう。現在，日本弁護士連盟（日弁連）と陪審制度の復活を含めた司法改革について一緒に活動しています。日本でも戦前15年間，一般人が司法参加した陪審制度が存在したのをご存じですか。戦争のため停止されたままになっていますが、近年，職業裁判官制度の諸問題が指摘され始め，日弁連でも派遣団をアメリカに送り，本格的に陪審制度の勉強を始めました。かれらの共通した姿勢は，完璧な陪審制度とは何ぞやという“答え”をつねに探していることです。でも問題の無い完璧なシステムというものはあるのでしょうか。アメリカでは完璧なシステムは初めからありえないのだから，できるだけ民主主義で理想的なシステムに近づけようと司法関係者は必死に努力します。つまり答えは存在するものではなく，創り出すものだからです。日弁連の考え方の再教育が必要な訳もここにあります。つまり即解答を求める思考癖と本質的問題に直面したときベストなステップを創造していく能力の欠如です。

アメリカ留学

最後にアメリカ留学について考えてみましょう。高校や大学を卒業していきなり渡米するケースがあります。それで大学卒業までいくケースはほんの一握り，殆どが失敗したケースです。その理由は，米国留学すれば誰でも英語が習得できると簡単に考えていることや，英語を英語で勉強するだけの基本的英語力がないことがあげられます。アメリカ一般人と同程度の表現力を日本でつけてからでなければ大学留学の意味がありません。そしてはじめてアメリカ人と対等につきあうことができるのです。ハンデを負っての渡米ではアメリカ社会の本質を見極めることはできません。そしてもう一つ大切なのは，留学先の国を充分研究することでしょう。語学力や日本脱出だけを考えていた私もアメリカについての現状知識は殆どありませんでした。もし卒論担当の生田 信之先生のご助言が無かったら私の留学も違ったものになっていたはずです。いつまで経っても卒論研究を始めない私に，先生は本多勝一の『アメリカ合州国』を差し出しました。読んで大きな衝撃を受けました。アメリカ社会組織で，もがき苦しむ人たちがいること，そしてその中には黒人やアメリカ先住民，日本から渡米した人たちも含まれいること。渡米後，社会学を専攻した理由に生田先生からのご助言があったことは言うまでもありません。

最後に

私の究極の夢はアメリカ社会，そしてできれば全世界から人種・民族差別を無くすことです。もちろん明快な答えは存在しません。これからも試行錯誤していくことでしょう。でも，問題解決の糸口を探すのがこれまた楽しいのです。学生の皆さんも，これから大きな夢にむかって世界に飛び出してください。

ホームページ：http://sociology.ucsc.edu/faculty/hiroshi/
電子メール：hiroshi@cats.ucsc.edu